

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任

水野 喜代治

正直に生きることの大切さ NO19

過ちを犯したときに、正直に過ちを認めて素直に謝罪するか、過ちを犯したことを曖昧にして誤魔化すかの二つの選択肢があります。どちらを選択するかで、人の生き方は全く異なるものになります。過ちは、だれもが犯す可能性があります。過ちを一切しないで人生を過ごすことは誰もできないと思います。そう考えると、誰もが過ちをする可能性があるのだから過ちは許してあげなければならないことだと思います。他人の過ちを許さないということは、自分も過ちを犯したら許されないということになると思います。

過ちを犯した時に、そのことを誤魔化そうとする人は、謝罪しても相手が許してくれないと思っているのでしょうか？それとも、過ちを犯してしまった自分を認めたくないのでしょうか？とにかく、過ちを犯した自分に、私は過ちを犯していないというふうに嘘をついて誤魔化すわけです。このような誤魔化しをする人は、逆に相手が過ちを犯したときは、謝罪してきても許さない人が多いと思います。お互い様という気持ちが希薄なのだと思います。自分の過ちを正直に認めて、相手に謝罪できる人は、謝罪してきた人も認めて許せる人だと思います。

逆な言い方をすると、人には過ちを許せる人と過ちを許さない人がいると思います。過ちを正直に認めて、相手に謝罪をすることはとても勇気のいることだと思います。自分の至らなさを自覚して、相手に謝罪することはとても難しいことだと思います。謝罪する人は、勇気が必要なことを知っています。ですから、相手が謝ってきたときに相手を受け止められるのだと思います。

正直になれる人、相手を許せる人は優しいと思います。そういう生き方が大切なんだと思います。嘘をついて、相手を誤魔化す人は、まず、本当のことを知っている自分の心を誤魔化すことから始めます。自分に嘘をつけるようになったら大変です。正直に生きることを意識して生活していきたいです。